

(仮称) 野田川地域認定こども園整備に係る進捗状況報告会での質疑応答について

令和6年9月
与謝野町

一人でも多くの方々と共有することで、(仮称)野田川地域認定こども園整備についてのご理解をいただきたいので、野田川地域のこども園及び保育所をご利用頂いている保護者、こども園建設予定地域の石川区住民の皆様ならびに野田川地域の皆様を対象とした、整備に係る進捗状況の報告会における質疑応答集を作成しました。

開催日：令和6年8月7、8、9、21、28日

開催場所：のだがわこども園、山田保育所、石川保育所、石川農業構造改善センター

対象者：野田川地域の園、所の保護者、石川区役員、野田川地域住民

Q1 のだがわこども園、石川、山田保育所を閉園、集約し、新しいこども園を開園するとのことだが、開園は令和10年4月1日からか。

A1 今後、新しいこども園の設計、整備を進めていきますが、今の段階で移転する日程は決まっていません。過去、つばきこども園は秋に完成し12月に開園しました。保護者のご意見もいただきながら決めさせていただきたいと考えます。

Q2 新園舎の開園は令和9年度中との予定になっているが、令和10年度になることもあるのか。

A2 令和9年度中の開園を目標としていますが、今後の設計、工事等の進捗によっては開園が令和10年度になる可能性もあります。

Q3 のだがわこども園と山田保育所を閉園し、その後の活用はどうするのか。

A3 今後、有効に活用できるよう検討していきたいと考えています。

Q4 新しい園の広さについて、運動会等大きな行事の際、現在の施設では駐車スペースが少ないと思うが、新しいこども園では駐車場の確保はされるのか。新しい物をつくるのだから一定の大きさの確保がされなければ意味がないと思う。

A4 新しい園については、ある程度の大きさは確保しつつ大き過ぎることのない計画としています。行事等で駐車スペースが不足する場合は、近隣の小学校、公民館等のスペースをお借りし対応したいと考えます。

Q 5 なぜこども園から集約を実施するのか、小学校からではだめなのか。

A 5 小学校の再編については、適正規模・適正配置の観点から令和12年以降になると教育委員会において判断されています。こども園の整備については、地域格差の解消、園舎の老朽化等を鑑みると小学校の再編まで待てないと判断しています。

Q 6 施設が三つから一つになることで職員の定員数が減らせると思うが、削減は考えているか。財政が厳しいので削減すれば良いと思うが。

A 6 職員の定員数は削減できますが、現在でも会計年度任用職員に頼っている状況であり、多くの仕事をしていただいています。集約による財政面のメリットを考えると、会計年度任用職員の削減とランニングコストの抑制が行えると考えます。

Q 7 新園舎整備の候補地は3ヶ所であったが、今年の3月末の時点で石川保育所周辺での整備という事が決まったのか。

A 7 庁内において協議、検討を重ねた結果、町の方針により石川保育所およびその周辺で新しい認定こども園を整備したいと昨年9月に公表させていただきました。

Q 8 水害対策について、水路内の堰板により流下能力を阻害してるケースがあるとのことだが、どういうことか。

A 8 田に水を引き入れる際に水路に板をはめ、水をせき止める形で水を引き入れますが、大雨等の際、堰板に刈草や流木が集積され水路が溢れるということがあります。

Q 9 新園舎整備については保育士等からの意見も踏まえてとあるが、どのように意見集約等行うのか。

A 9 野田川地域の三つの園が一つになることによって、どんなことが考えられるか等、現在でも保育士から様々な意見を聞いています。

今後、具体的な設計等進める際に検討委員会を立ち上げる等、意見を集約する場を設けていくこととします。

Q 10 大規模園になることによって方針等は変わりますか。

A 10 180人という定員よりも、1クラス15人から20人程度という集団で子供たちが育ち合っていく環境が良いと考えています。現在の園、所でもその方針のもと運営しており、それについては変わることはありません。

Q 1 1 山田保育所、石川保育所が集約されることにより、子どもたちはクラスの人数が増える等、環境について戸惑うところもあると思うので、今までの先生がいるのが安心であると思うが。

A 1 1 過去にも、施設の集約の際には出来るだけ今までと同じ先生が配置されるような配慮はしています。

現在、山田保育所と石川保育所の交流を行ってきており、子ども同士、先生等、知っている顔が増えるような準備についても進めているところです。

Q 1 2 災害対策で、敷地の嵩上げと1部2階建てと書いてあるが、嵩上げも大事だとは思いますが、建物には絶対2階部分が必要であると思う。災害時に垂直避難が出来るように、嵩上げだけで良しとしないで欲しい。

A 1 2 垂直避難も可能な建物にしていきたいと考えています。

Q 1 3 今後のこども園整備の流れを教えてください。

A 1 3 今後、敷地造成の設計、施設建物の設計を進めて行き、その後石川保育所の解体工事、敷地造成工事を行い、新園舎の建設工事を行います。

大まかには令和7、8年度で各設計を行い、令和9年度中に新園舎を開園する予定で進めて行きたいと考えます。

Q 1 4 今後事業が進んでいくと工事車両等も入って来ることになり、安全面が心配であるが。

A 1 4 今後の進捗等、具体的な情報については、園を通じる等様々な形で周知させていただきたいと考えます。

Q 1 5 交通安全について、交通量調査を行った結果新たな問題を生じる恐れはないとあるが、具体的に数値でもって根拠の説明をしてほしい。

A 1 5 交通量調査については周辺町道4路線、午前7時から午後7時まで、上り下りの各方向及び1時間毎の交通量を調査しており、その結果について事細かにお示しするのは困難であると判断しました。

調査結果と新しい園舎ができた場合に通うであろう送迎時の車の台数等勘案し、京都府警察本部と協議を行い、調査結果の台数であれば問題ないという結論に至っております。

Q 1 6 周辺道路の時間帯による交通量と、保護者の送迎時間帯ごとに分析された結果をもって京都府警察本部と協議を行い、問題無いということか。

A 1 6 その通りです。

Q 1 7 過去には建設予定地周辺の道路が多く浸水してる。予定地は嵩上げにより安全だから大丈夫という議論は、送迎の対応等を考えても納得できない。

A 1 7 嵩上げにより施設自体の安全性を確保したいと考えています。仮に周辺が浸水することとなっても、事前に連絡を行い迎えに来ていただく等の対応が必要と考えており、更に建物2階部分に垂直避難もできるように整備していきたいと考えます。

Q 1 8 登降園時など車が増え危険では。

A 1 8 交通安全に配慮しながら、各方面からの登降園ルートを複数考えており、今後保護者と協議しながらルートについて決定していきたいと考えます。

Q 1 9 園舎を建設するためこれだけの広さは必要か。

A 1 9 園児の定員数を基に法令や条例、保育現場における保育士等からの意見を踏まえ、また、これまで整備してきた園の事例を参考に施設規模を想定しており、必要な規模であると考えています。

Q 2 0 新しい園の整備については、野田川地域の既存3園を活用することを前提として検討した結果ということだが、それ以外の土地での検討はされなかったのか。

A 2 0 野田川地域の既存3園を検討する以前にも、野田川地域内の土地を比較検討した経過はありますが、その結果、既存3園から石川保育所とその周辺を候補地とすることとしました。

Q 2 1 送迎バスは考えてないのか。

A 2 1 これまでそういったご意見もいただいておりますが、現在町では送迎バスの運用は考えていない旨回答しています。今後そういったニーズが大ききようでしたら検討していきたいと考えます。

Q 2 2 小学校は気象に関する警報が出た場合は自宅待機となるがこども園はどうか。

A 2 2 警報が発令された場合でも基本的に施設は閉鎖しません。携帯端末ツールにより、保護者の方へ状況についてお知らせをする対応を行っています。

Q 2 3 敷地面積は今石川保育所の何倍になるのか。

A 2 3 石川保育所の敷地面積は3,000㎡あり、買収予定地を含めた計画予定地は9,300㎡となり、3倍程度となります。

Q 2 4 駐車場以外の園舎、園庭の面積を知りたい。

A 2 4 園舎は1, 600㎡程度、園庭は1, 500㎡程度と考えており、残りの6, 200㎡程度が駐車場とその他外構として計画している。

Q 2 5 石川保育所の園舎の床面積は。

A 2 5 約1, 000㎡です。

Q 2 6 こどもの人数が3倍になるが園舎の大きさは確保されるのか。

A 2 6 保育室の広さについては定められた基準があり、それを基に計画することとしており、その他遊戯室、トイレ、職員室、倉庫等の諸室について、これまで整備してきた園を参考に計画していきたいと考えています。

Q 2 7 今後の造成工事や解体工事等において近隣の家屋に問題が発生した場合保証をしていただけるのか。

A 2 7 振動等による被害が予想される工事については、家屋調査を事前に行い工事施工後に変化がないかの確認を行います。その際に被害があれば保障にも対応もさせていただいていますので安心いただければと思います。